

「愛顔(えがお)あふれる愛媛づくり」

令和2年度「知事とみんなの愛顔(えがお)でトーク」知事講話

開催日時：2.7.29(水)

開催場所：新居浜市消防防災合同庁舎

皆さん、こんにちは。今日はいろいろな立場の人がいらっしやると思いますが、西条市、新居浜市、四国中央市でそれぞれ活動されている皆さんとの「愛顔でトーク」の開催の運びとなりました。ちょっとコロナの関係で開催どうなるかなと思っていたのですが、まあ昨日は全員のPCR検査は陰性でございましたし、今日も、午前中の検査は陰性が確認されましたので開催させていただきたいと思っております。

普段は、この「愛顔でトーク」の冒頭のあいさつは、県政全般に関するいろいろな分野の触りの部分を私の方からお話させていただくんですが、何と云ってもこの3月以降、コロナに追われる日々が続いておりまして、現在は、これを抜きにしては県政のことも語れない状況になっていますので、それを中心に、まず冒頭触れさせていただきたいと思っております。

【新型コロナウイルス感染症対応】

(感染の経緯・状況)

2月にダイヤモンドクルーズ船から愛媛県の方も数名乗船されていまして、この方々が帰県してから、対応が本格的にスタートいたしました。幸いクルーズ船の乗船者は陽性者はいなかったんですが、その直後に、3月だと記憶してますが、愛媛県の南端、愛南町で初めての県内の陽性確認ができました。この時は大阪に行ってそこからの持ち帰りということだったんですけども、それ以降、散発的に県内各地で陽性者が確認されるようになりました。一番対応に追われたのは、何と云っても松山市で3件発生したクラスターでございました。サービス付き高齢者住宅でのクラスターの発生や、精神治療の病院でのクラスター発生等々、本当にどこまで食い止められるかという日々関係者総力を挙げての対応に追われる日が続いておりましたけれども、これが大体収まったのが5月末ではなかったかと思っております。東予の方は比較的落ち着いていまして、今治、西条、四国中央市では感染者がゼロ。そして新居浜市でも、転勤で来られた方が来てすぐに陽性確認されたということで、広がることはありませんでしたので、比較的東予の皆さんについてはコロナは少し遠い存在だったのかもしれませんが、しかし、ここ数日で今治市で確認、そして新居浜市で確認と続いておりまして、人の移動に伴って、どこでも散発的な発生が起り得るというような状態が日本全国に広がっています。昨日は、全国に47都道府県ありますけれども、その内の40県で陽性者が確認されています。特に東京、愛知、大阪はご案内のとおり100人、200人という規模で発生・確認がされていますし、また西日本の中国、四国、九州では、昨日は徳島を除いて全県で陽性確認が出ているような状況でございます。

(感染回避行動)

大事なことは慌てないということでありまして、正しく恐れるということがコロナに向き合うためには重要でありまして、その特性というものを一人一人の方が感じ取っていただ

き、個人個人で感染拡大回避行動をとっていくのが最大の回避策になるということも言うまでもないところであります。

そこで愛媛県では、できるだけ分かりやすい言葉で個人の皆さんに回避行動を浸透することができないかということで、3つの言葉に集約をさせていただきました。その一つが「うつらないよう自己防衛」ということであります。これは本当に言葉から推測していただけたらと思いますけれど。マスクを着用する、終始一定、指の消毒をする、アルコール消毒も含めてそういうことをこまめにやる、うがいを励行する。本当に徹底した個人個人の行動が何よりも重要であります。2つ目は「うつさないように周りに配慮」。いつでも、無症状の場合もありますから、感染しているかどうか分からないコロナウイルスの難しさでございますので、まあ一番効果があるのはマスクの着用でございます。マスクはどちらかと言うと自己防衛よりは飛沫を防ぐということで、他人にうつさないという効果が最もあるというのがマスクの特色なんで、こういったことを配慮して、人と話す時はマスクなしの場合は本当に気を付けたたり距離を置いたりというようなことに、日々の日常生活の中で気を配っていただくということ。そしてもう一つは、感染しやすい環境に近づかないということで、「習慣化しよう3密回避」という言葉でございます。これは言うまでもなく、そうしたところに可能な限り近づかない。飲食店に行くにしても3密回避の対応をしているかどうかを確認した上で利用するとか、ちょっとした心構えで随分と生活パターンは変わっていくんだらうというふうに思います。「うつらないよう自己防衛」「うつさないよう周りに配慮」「習慣化しよう3密回避」。これを一人一人の方が徹底していただけたならば、乗り越えることができると思います。しかしそうは言っても完全にこれができるという保証はありませんから、大事なことは、まず確認された時には速やかに囲い込むという行動を起こすということ。これに奔走するのが保健所の職員さんであり、あるいはそれを受け入れる病院関係者であり、こうしたところが発生した場合は昼夜を分かたず動いてもらうということになっています。

(医療提供体制)

愛媛県の場合、実際3月の段階で受け入れられる病床は70床でございました。これは3月の時点であります。しかしこれでは心もとないということで、どんどん増やしております。現在重症患者を、いわゆる人工呼吸器であるとかエクモとか重症になった場合集中治療する、こうした場所が43床、そして中等症、重症まではいかないけれども発熱があつたりといった方々を治療する病床が180床。そして、これが一番確保するのにハードルが高かったんですけど、無症状の方に入ってもらう宿泊療養施設、これが現在稼働しているのが67床で、さらに別に50床は、もしもの時はいつでも空けられるというふうな約束を取り付けておりますので合計で117床、当初70床であったものが宿泊施設を入れますと340というような構えになっているところでございます。

ちなみに松山市で発生した大型クラスターの時にも入院患者のピークが28名でありましたので、28のピークに対して340ということで、現在そういった構えで第2波に備えるというような体制をとっているというところでございます。

(検査体制の整備)

そしてもう一つが、PCRの検査体制でありますけれど、これは国全体のルールというか方針であるとか、国全体の当初の方針というのは医療崩壊を防ぐということを最優先に

考えたようでございます。そのためにPCR検査というのはいろんなルール化をされて、こういう場合にやるというようなことで制限がかかっています。そこにPCRをどんどんやれという声に対して、なかなか全国的に広がらない背景があるわけでありまして。ただそうはいっても県内での検査体制というのはどんどん充実をしていこうということで、当初、愛媛県の衛生環境研究所というところにPCRの機械が1台しかありませんでした。この1台というのは1日にできる検査がマックスでフル回転させて40件くらいでございます。これではとてもじゃないけど心もとないというんで、すぐに機械を探したんですが世界中で取り合いになってまして、やっと1台導入できたのが3月。その時点で2台、そして6月に入ってさらに2台追加しまして、現在4台体制になってますので、大体1日フル回転すれば200件近く検査ができる状況にはなっています。ただ人数が足りないの、検査する人の関係が足りないの、こちらは愛媛大学の医学部の先生方にも協力を仰いでローテーションを組んで、もしもの時には200件フル回転できるような体制を考えているのが現状でございます。

（病床、宿泊療養施設の確保）

そして先ほどの病床につきましても、この病床を確保するというのは意外とたやすくできます。ただ人がいます。やっぱり、お医者さんや看護師さんがその病床にかかりきりになってもらわないと運用ができませんので、愛媛県の場合は、その人数、人の手配ができたものだけを確保した病床としてカウントしていますので、実質さっき申し上げた340というのは、いざという時にはフル稼働できるという状況になっています。

もう一つが先ほどの宿泊療養施設がありました。ホテルやそういった施設の方々からすれば、それを提供することによって風評被害を受けてお客さんが来なくなったり、第1号だと、もう皆に注目されているんな従業員さん、関係者さん、皆さんへの嫌がらせが発生するんじゃないかというようなことがあって、なかなかどこも手を挙げてくれませんでした。その中で奥道後にある壺湯の守さんが、本当に最初はやっぱり「無理です。」「いやでも地域のために。」「やっぱり無理です。」の繰り返しだったのですが、最終的には地域のためにとということで、その地域の皆さんも理解してくれまして、愛媛県全体のためになるならばということで提供を決めてくれたのが本当に大きかったと思います。ここができたことによって、それまでは無症状でも全部病床に入っていたいただいていましたので、どんどん、場合によっては病床が埋まっていってしまう状況でしたので、無症状の方はこちらのほうで観察しながら過ごしていただく体制が、しかもホテルですから快適な環境で過ごしていただけるというようなことが構えとしてできましたので、これは本当に我々にとってみれば決めていただいた時は歓喜の声が上がるくらい大きなポイントになりました。

（県内の感染状況（現況））

まあこんなことで、構えと施設や医療関係との連携ということが構築されて今日に至っているところであります。そんな中で今治でも先日確認された方が出た時にはその日の内に保健所の職員も走り回ってもらいまして、17名の濃厚接触者を確定し、その日のうちに全員待機していただき、翌日の朝には全員の検体を採取し、翌日全員の検査確認ができたということでございます。

新居浜の今回のケースも速やかに対応をとり、こちらは西条保健所と勤務地の四国中央

市の保健所が連携して5名の方の同僚の方の健康観察と検査を完了してしまして、全員陰性でございました。残る2名の方がいらっしゃるんですが、すぐにやったらいいんじゃないかと思われる方が多いんですが、このウイルスには潜伏期間というのがありますので、接触してからある程度日数が経たないと判定ができないんですね。そんな関係で31日に残る2名の方の検査が予定されておりますので、まあここでもし、お二人とも陰性であったならば囲い込みはこれでできたということになります。この方々も2週間は自宅待機ということで外との接触はやめていただくということになりますので、それぞれ正確な情報を受け止めていただいて、皆さんが冷静に判断していただいたらというふうに思っているところでございます。

（個人情報への配慮）

ただ悲しいかな、今SNSなどという、誰にでも自由に名前を伏せていろんな情報を拡散できるものが広まっています。その中では、本当にどうしてこういう言葉を拡散するのかというような方が残念ながらいらっしゃいます。先日も今治で、その中のやりとりの中で、あの店に行っていたのではないかという情報を、その中でのメンバーが鵜呑みにして、誰とは分かってはいませんが、この店はウイルスがまん延しているとか、ビラをばらまいたり実際そういうことになってしまうんですね。ここは本当に難しいんですけども、かかってない方からみれば、どこに行った、どこの店、誰と会った、もっともっと情報をと、気持ちは分かるんです。でもそれをどんどんやっていったらどうなるかというのは想像力の話であって、あんなふうにさらし者になるんだったら、私ちょっと具合悪いけど言わない、言うのはやめよう。職場休んだらコロナと思われるかもしれないから休むのやめよう。そういう気持ちがまん延してしまいます。そしてもう一つは、保健所が一生懸命調査してそこから囲い込みの手段を打っていくんですけども、あんなふうなことになるんだたら調査には協力しません、怖くてできません、というふうになってしまう。そうすると何の手も打てませんから、もしこちら側に広まっていった場合はどんどん拡大していくということになる。だからSNSへの無責任な発言は、どれだけのことにつながっているかということとは本当にやっている人たちには考えてもらいたいと思いますし、また逆にそういうことをやっている人をみたら、「やめなさいよ。」、「そういうことを想像しなさいよ。」ということのを皆で言うぐらいの世の中にならないと、なかなかブレーキが利かないのかなということをつくづく最近感じているところでございます。

（事業継続と経済活動回復への支援）

まあこのようなことで県としては市町とも連携しながら徹底的に、これ移動すれば散発的な発生は避けられないと思います。問題は早期にそれを一個一個事例ごとに囲い込んで封じ込めるということで向き合っていくしかない。恐らくこのコロナというのはワクチンの開発が世界に広がるまで、開発が成功して世界に広がるまで付き合わざるを得ない難敵だと思います。コロナと向き合いながら歩いていくということのを、仕事の面でも日常生活の面においても考えて前進していくしかないなあというふうに思っています。

そんな中もう一つ、まさにコロナを徹底的に抑えようとすれば、例えばロックダウンとかもう完全にシャットアウトして、仕事も皆さんやめてください、何もしないでください、というのが一番たやすいことだと思います。しかしそれをやるとどうなるかというと、今度は生活収入がなくなります。働く場がなくなります。経済活動が止まってしまった場合

に、当然今度は別の意味で、経済死という現象が起こってきます。これはもうどこの国でも起こりつつある、企業の倒産もしかりでありますし、自殺者まで出てくるというこういう現象が出てきてしまいます。であるがゆえに、コロナの感染拡大対策をやりながら、これは徹底的にやりながら、この中でどうやれば経済を動かしていけるかを模索しながら歩いていくしかない。ものすごい難しいハンドリングになろうかと思いますが、もうやっ

ていくしかない。

県では決して五分五分ではなくて、たとえば六・四で、六は感染拡大に注力をし、その中でこういうやり方だったら大丈夫だろうということを模索しながら、40の比率がどうかと正確には言えませんが、経済政策を打っていくというようなことで動いているところがあります。

そんな中、例えば当初東京都で、東京都はお金がたくさんありますから、これはという業種に休業要請を出しました。休業要請を出したところにはお金をあげますという協力金を出しました。しかし、これを東京都のような財政力のない地域がやったら、あつという間に破綻をしてしまいます。まあそんな中で愛媛県は、この東京方式はいろんな面でどう考えても無理だと思ったんです。というのは例えばキャバレーだとかパチンコ屋さんであるとか、ホストクラブであるとかそういったところに休業要請を出してそこにお金を渡しているんです。でもこちら側には休業要請の対象外でも、やっぱりお客さんがくるから自主的に閉めようという人がたくさんいました。そこにはお金が払えないんです。この矛盾をどう考えるべきなのかということがまず第1点でございました。

そこで東京都とは違う方式をやろうというふうになりました。例えばスーパーでも、東京都は千平米以上の大きなところに休業要請を出してそこにはお金を払います。千平米以下の中小のところには休業要請を出しません。ただお金は出しません。これ、差別化、不公平感がどんどん拡大していったんですね。

愛媛県はどうしたかという、休業要請は絞り込みました。しかも協力金は申し訳ないけれども出しません。例えば風営法に基づくお店では構造的に3密が回避できないですね。だからそういうところ限定して休業してくださいと。そうして他の方々も自主的に休業している人がたくさんいるので協力金は出せません。もちろんその批判は受けます。でもこれは不公平感を拡大させないためには致し方ないというふうに思いました。そのかわり3密回避のアクションを起すところ、例えば飲食店でパーテーションを買って3密回避の工夫をしました、アルコール消毒液を買って対策をしました、列がぎゅうぎゅうにならないようにテープを貼って列の間隔を空ける工夫をしました、そうした3密回避の工夫をしたお店に対して、さきやかですけれども協力金を出そうという前向きなお金の使い方、前向きな取組みをしているところに協力金を出すという全く真逆の協力金を、愛媛県ではやるようにした経緯がございます。

そしてもう一つは、飲食店等々も含めてテイクアウトをやるとか、あるいは防護服を新たに作るとか、また業種を超えてタクシー会社とお店が協力してテイクアウト、商売、ビジネスをやるとか、そういうコロナ禍における新たな経済活動にチャレンジをするところに協力金を出すという制度を立ち上げさせていただきました。結果として、双方ともに大体5,000件、3密回避が5,000件、そして新しいビジネスチャレンジも5,000件以上皆さんに活用いただきまして、いろんなビジネスがチャレンジとして生まれてきているのは大

変心強いなど。すなわち協力金は休業要請してもお支払いすれば、もうそれでお金は終わりですから、生きたお金にならない。でもこのチャレンジ、あるいは3密回避にバックアップしたお金というのは、後に残っていくものですから生きたお金になるんじゃないかなと。そんなところで工夫をさせていただいた次第でございます。

そしてもう一つは、これはいろんな意見があると思います。旅行会社や旅館、レストランなどさまざまな業種に影響を与える観光業でございます。これについては愛媛県としては、コロナの情勢が7月に入って東京都が1日50人超えたあたりからおかしいと、何か東京都の発表の数字の出方が非常に不自然に感じたんです。これは爆発する可能性があるんじゃないかということを議論しまして、旅行については慎重にいこうという方向性に舵を取りました。そこで愛媛県は喚起するために、県内の愛媛県民を対象にした旅行の補助金、6月は愛媛県内、県民だけを対象にした補助金、そして7月についてはまだまだ感染拡大、市中感染拡大していない、コントロールできている四国・広島、それから船の路線のある、ここもちょっと最近出ていますけれど、大分あたりを対象に補助金を出す。徐々に、そして地域限定でやるという方向でやりました。そして8月になってから様子を見て対象を全国にと思っていたのですが、ご案内のとおり状況になったわけでありまして。ですから8月以降は全国対象はやりません。これまでどおり、周辺県のみということで県の助成制度というのは立ち上げています。ただ一方で、国はご案内のとおり7月に前倒しでGoToキャンペーンをやっていたので、これはもう東京以外は全部適用なんで人が来るということを抑えるということが不可能でございますので、これはもう水際でできる限りのことをやる。例えば松山空港で検温を再開する、あるいはJRの特急停車駅でスピーカーで注意喚起やパンフレットで啓発する。港も同様でございますけれど、入口のところで水際での呼びかけ、そして旅館業やホテル業の方々には徹底した感染対策、例えばお客さんの検温実施とかを、ホテルごと、旅館ごとでやっていただくというようなことを含めて協会に投げかけをして実施に移していただいているところでございます。

（感染予防と社会経済活動）

まあこういう状況の中でこれから人の動きは帰省客そして夏休みということもあって増えてくるということは、経済を動かすということに関していえばメリットなんですけれど、しっかりと個人個人の回避行動と、それから受け入れる業者・業種の方々の取組みがしっかりしていなければならない時期を迎えようとしていますので、まあそのあたり丁寧に丁寧に、日々日々の状況を確認しながら夏を乗り切っていきたいというふうに思います。

昨日もお盆前に県民の皆さんにお願いしたいということでいくつか申し上げさせていただきましたけれど、例えばお年寄りや基礎疾患を持っているご家庭に東京からお孫さんが帰ってくると、本当に今でなきゃならないのかどうか家族で相談してほしいとか、ちょっとずらすことができないのかなということを相談してほしいと。それから帰った時に必ず行われるのが同窓会でございます。首都圏から帰ってこられた方が多数参加する同窓会。これはちょっと見合わせていただきたいとか。そのメンバーでもし陽性者が1人いてカラオケに行ったらあつという間だと思えますので、こういったところにも注意を払って、延期ないしは体調がちょっと悪い方は遠慮いただくとか、それぞれ幹事さんは決めていただきたいというような呼びかけもさせていただきましたが、まあ全員に届くわけではありませんので、精いっぱいの情報発信は心がけていきますけれども、意識の高い方々がそ

それぞれの地域でコロナ禍における生活、コロナ禍における経済活動、そういったことを広めるためにまたお力添えをいただけたらというふうに思います。

ということでコロナが中心になってしまいましたけれど、それぞれの課題については皆さんとのやりとりの中でお話しさせていただきたいと思います。30分で、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。